

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	乙	第	号
------	---	---	---	---


氏 名 青 松 棟 吉


論 文 題 目


Validity and reliability of the Japanese version of the CARE
Measure in a general medicine outpatient setting


(CARE Measure 日本語版の総合診療科外来における妥当
性と信頼性)

論文審査担当者

主 査 員 濱 嶋 信 之 
名古屋大学教授

委 員 植 村 和 正 
名古屋大学教授

委 員 葛 谷 雅 文 
名古屋大学教授

指 導 教 授 伴 隆 太郎 

論文審査の結果の要旨

患者-医療者コミュニケーションにおいて共感は重要である。英国では、患者の視点から医師の共感を評価するツールとして、**Consultation and Relational Empathy (CARE) Measure** が開発されて、診療評価に利用されている。日本でも患者への共感
は卒前・卒後医学教育を通じて学習目標の一つとなっているが、こうした能力を評価する妥当性および信頼性の検証されたツールは、これまで見られなかった。

このため、本研究では、**CARE Measure** の日本語版を作成し、名古屋大学医学部附属病院総合診療科外来で 317 名の患者に調査を依頼し、**CARE Measure** 日本語版の妥当性および信頼性を検証した。その結果、**CARE Measure** 日本語版は、Cronbach の α 係数および修正済み項目合計相関で高値を示した。また、**CARE Measure** 日本語版の得点は、患者の診療への満足度や、「担当医師を家族や友人に勧められるか」という質問への回答と相関を示すことが明らかになった。

さらに本研究の検討において、以下のような点が提示された。

1. 患者満足度の評価は、**Likert** 尺度により 4 段階で評価が行われた。
2. 評価者間信頼性は、医師 1 名当たりの患者数が十分でなく検討できなかったが、全般に同一医師への評価はある程度一定していると思われた。今後は、現在診療所受診者を対象に実施中の研究で、評価者間信頼性を改めて検討する予定である。
3. **CARE Measure** 日本語版で評価を行うことは、医師の診療態度に影響を与える可能性はあるが、本研究では複数の項目で最低得点が記録されており、改善が必要な点は抽出しうると考えられた。
4. 初再診の違いが評価に及ぼす影響については、初診患者が 5.7%のみであったため検討が困難であり、現在診療所受診者を対象としている研究で、検討予定である。
5. 担当医師に調査結果を通知することは、参加者の回答へのバイアスとなると考えられたため、本研究では一切行っておらず、その旨を参加者にも伝達した。
6. 患者-医療者コミュニケーションにおいて共感の受け手となる患者の視点からの評価は、共感の評価の妥当性を高めることになる。また、患者の主観に基づく評価であっても、複数の患者が評価することで、信頼性が高い評価となる。
7. **CARE Measure** 日本語版は、コミュニケーションスキルトレーニングでの評価に応用可能である。すでに、研修医を対象とした客観的臨床能力試験に用いられている例もあり、今後さらに活用されていくことが期待される。

このような知見から、本研究は **CARE Measure** 日本語版の医学教育への応用可能性を示した。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。